

人口減少時代、地方の自治体に活性化策はあるのか？

2018年10月3日

株式会社 日本総合研究所 主席研究員

株式会社 日本政策投資銀行 地域企画部 特任顧問

もたに
藻谷浩介 kosuke@motani.com



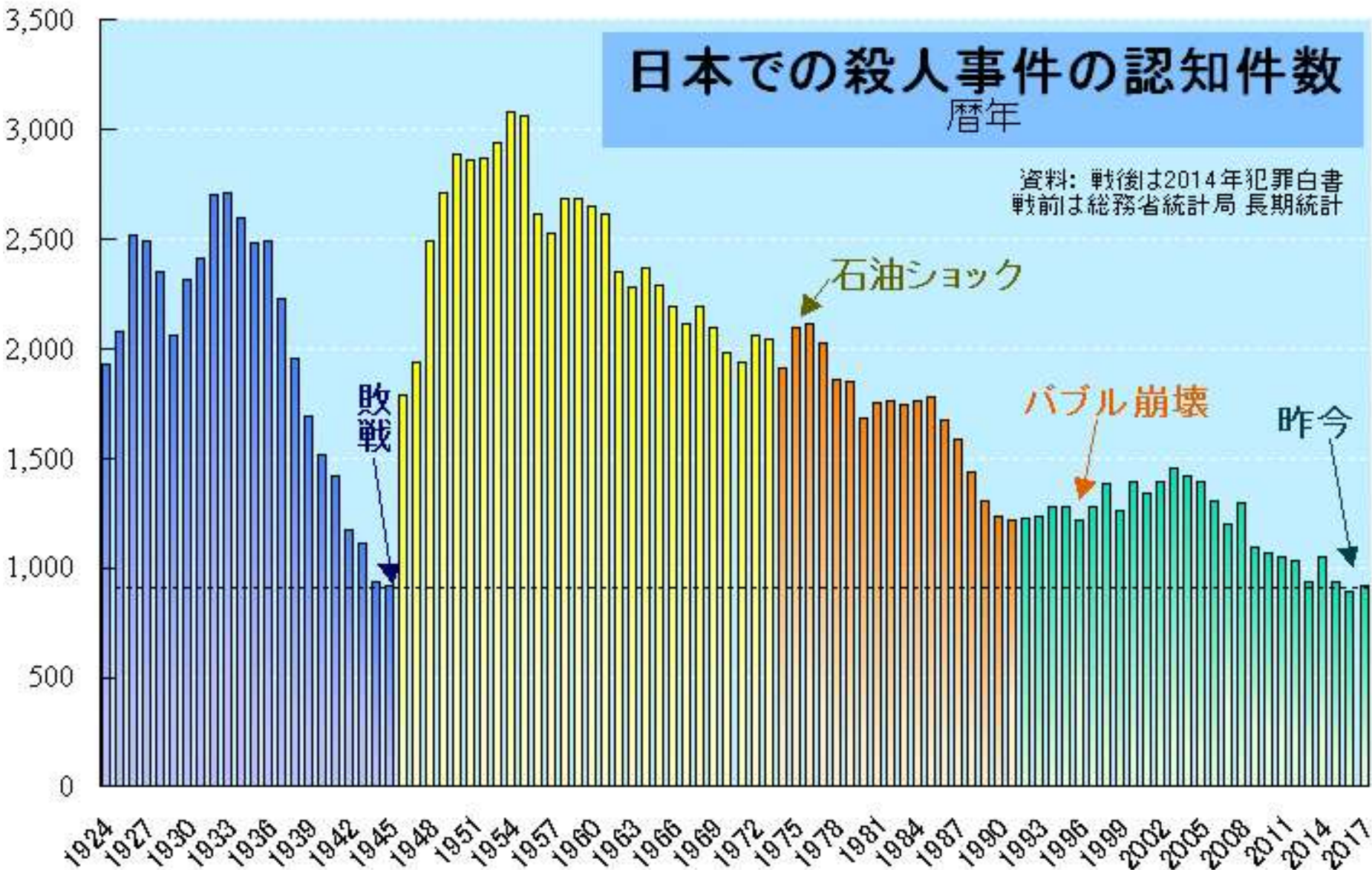
「イメージ」や「空気」は事実と違う

- 常に事実を数字で確認しないと間違える

日本での殺人事件の認知件数

暦年

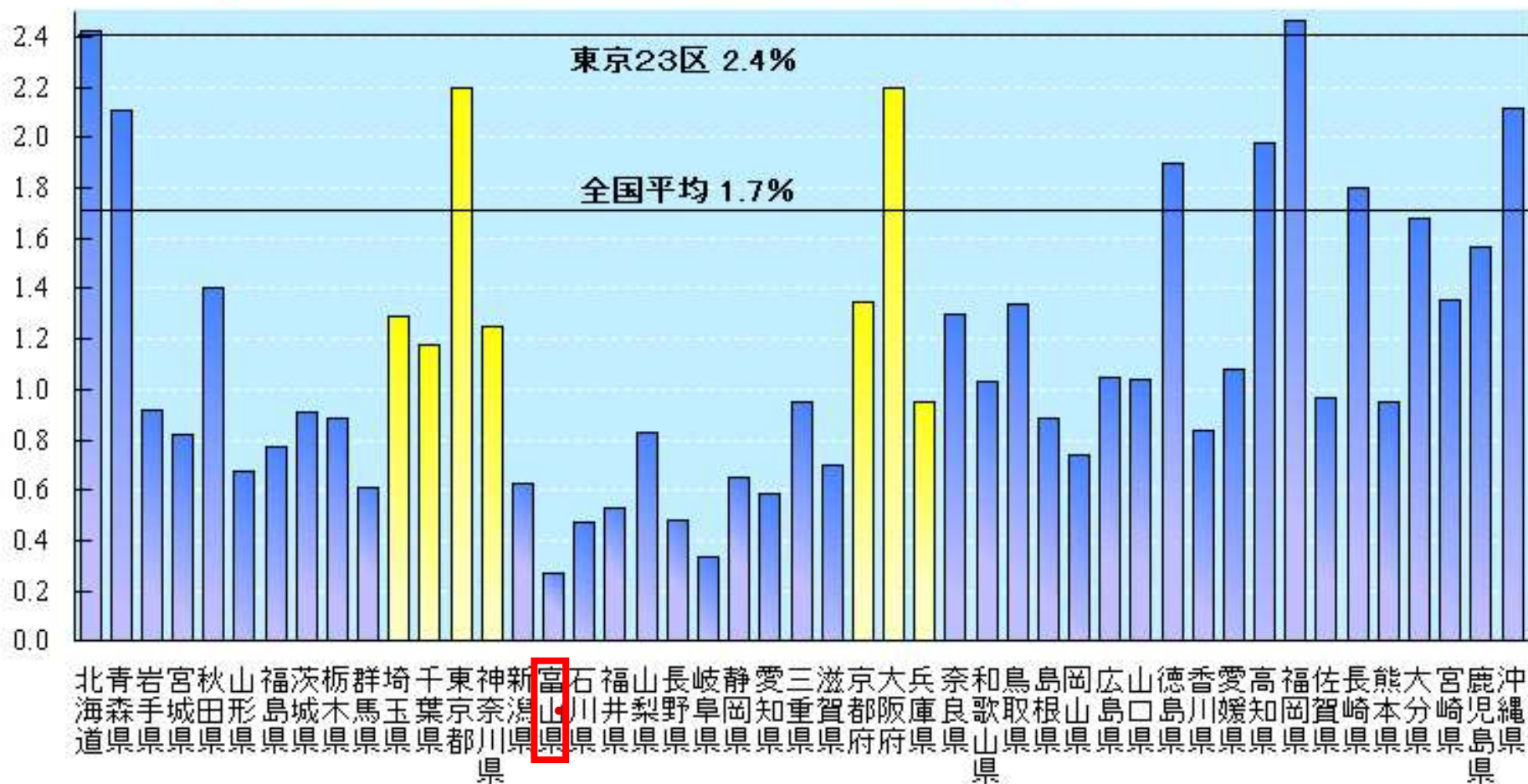
資料: 戦後は2014年犯罪白書
戦前は総務省統計局 長期統計



地方は貧乏 というのは本当か？

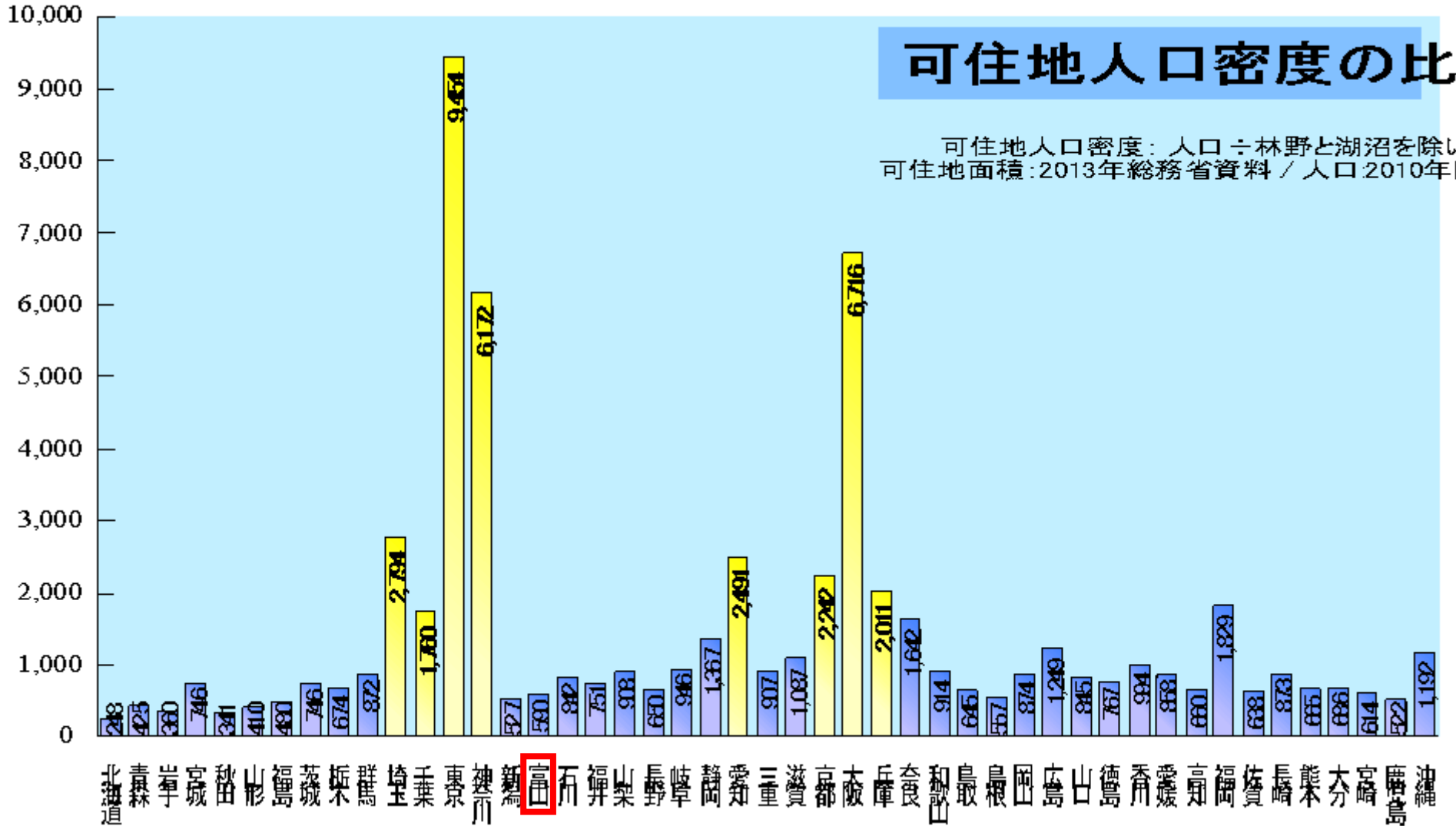
生活保護率-都道府県別

2015年 厚生労働省資料より



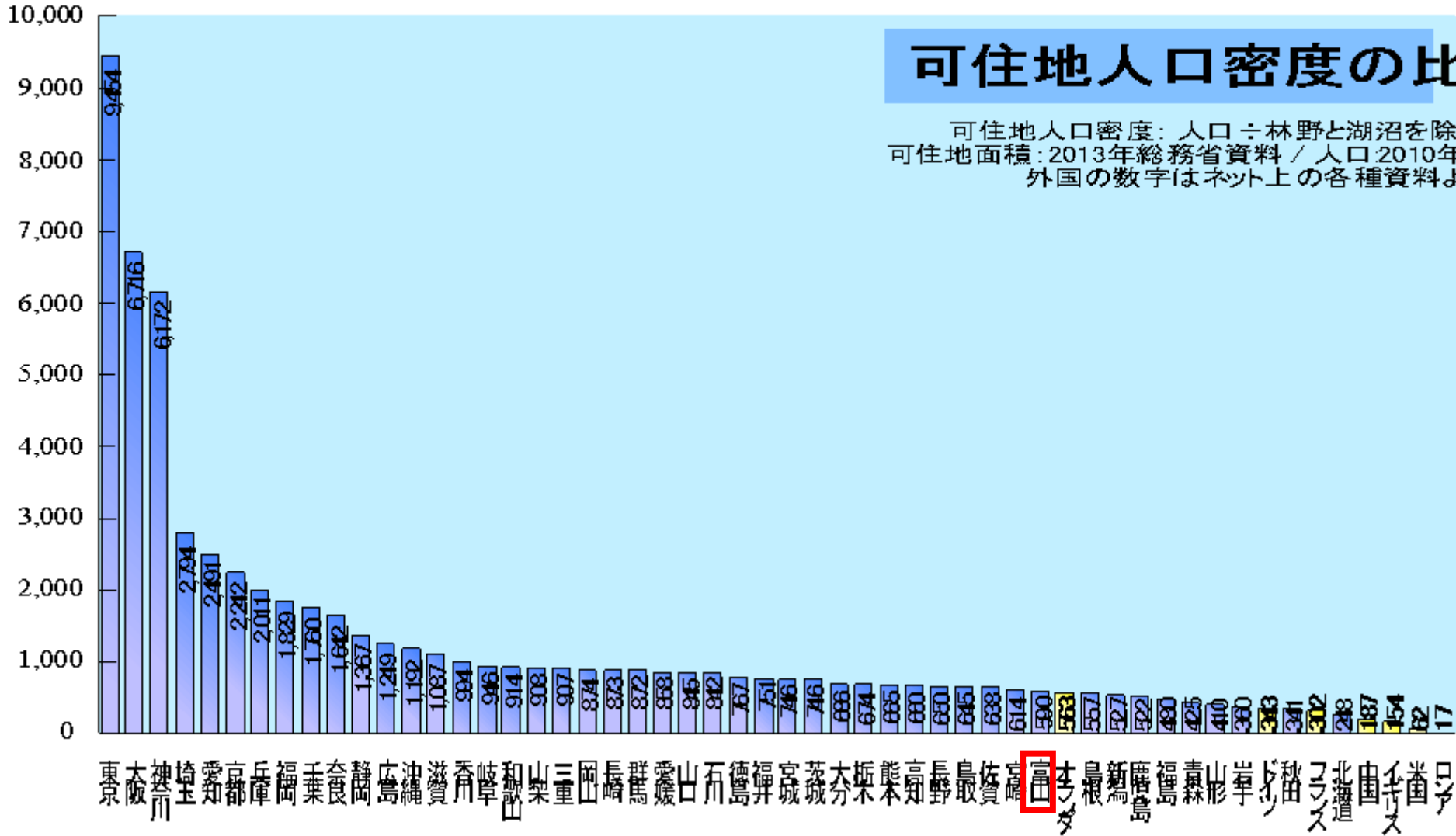
大都市圏に比べると本当に人が少ない日本の田舎...？

人/平方キロ



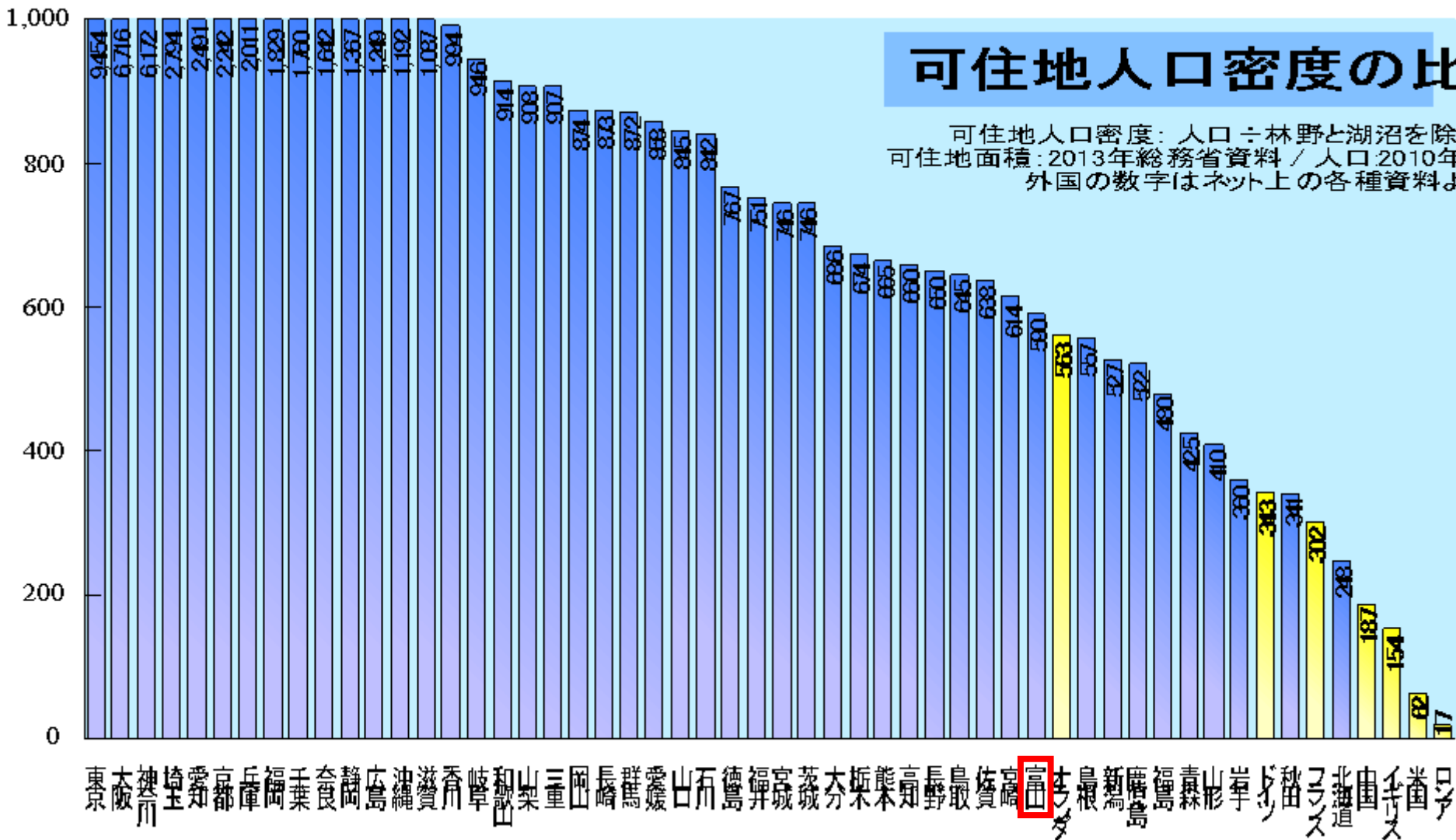
日本の大都市圏は世界的に見れば 異常なまでの人口過密地

人/平方キロ



日本の田舎も世界的に見れば たいへんな人口密集地

人／平方キロ



地域活性化って何ですか？

- ？ インフラ整備が進むことだ。
- ？ もっと知名度を上げることだ。
- ？ 予算を確保し執行することだ。
- ？ 人口が減らなくなることだ。

インフラが整備されて、予算が増えて使われ、知名度が上がれば、人口は減らなくなると、あなたは今なお本気で信じていますか？

地域活性化って何ですか？

? これ以上インフラを整備するよりも

? **これ以上知名度を上げるよりも**

? 予算確保と執行だけやるのでもなく

◎ **人口が減らなくなること。**

◎ 出て行った若者が戻ってきて、
子供が生まれ続けること。

◎ **誇りを持って地域を残すこと。**

富山県でいま起きてきていること

2013年度末→2018年正月 住民票基準、居住外国人含む

総人口：2013.3.31 → 2018.1.1 $\Delta 25,320$ 人

減少の圧倒的多数は流出ではなく自然減（死亡者が出生者より多い）



このまま続けば、70年少々で15～64歳がいなくなるペースの、深刻な減少

0-14歳人口の増減：

↓絶対数

↓増減

2013年 13.8万人→18年 **12.6万人** $\Delta 12,240$ 人 $\Delta 9\%$

15-64歳人口の増減：

↓絶対数

↓増減

2013年 65.5万人→18年 **61.2万人** $\Delta 42,240$ 人 $\Delta 6\%$

65歳以上の人口：

↓絶対数

↓増減

2013年 30.2万人→18年 **33.1万人** $+29,150$ 人 $+10\%$

↑その中の75歳以上の人口：

↓絶対数

↓増減

2013年 15.4万人→18年 **16.7万人** $+12,770$ 人 $+8\%$

なぜ富山県の

15～64歳は減っているのか？

最近4年9ヶ月間に

4.8万人が15歳を超えたが、
15～64歳が差し引き0.5万人流出し、
8.5万人が65歳を超えた。

新入生4.8万人 - 転校生0.5万人
- 卒業生8.5万人で
4.2万人の減少...

↑その中の7.5万人

2013年 15.4万人

↓増減

人

2013年

含む

なぜ首都圏の

15～64歳は減っているのか？

最近4年9ヶ月間に

147万人が15歳を超え、

15～64歳が差し引き64万人流入したが、

240万人が65歳を超えた。

新入生147万人 + 転校生64万人

- 卒業生240万人で

29万人の減少...

↑その中の7...

↓増減

2013年 350万人



「高齢化率」にみる「地域間格差」

いわゆる「高齢化率」の比較
2015年 国勢調査

2015年

高齢化率(65歳以上人口÷総人口)、%

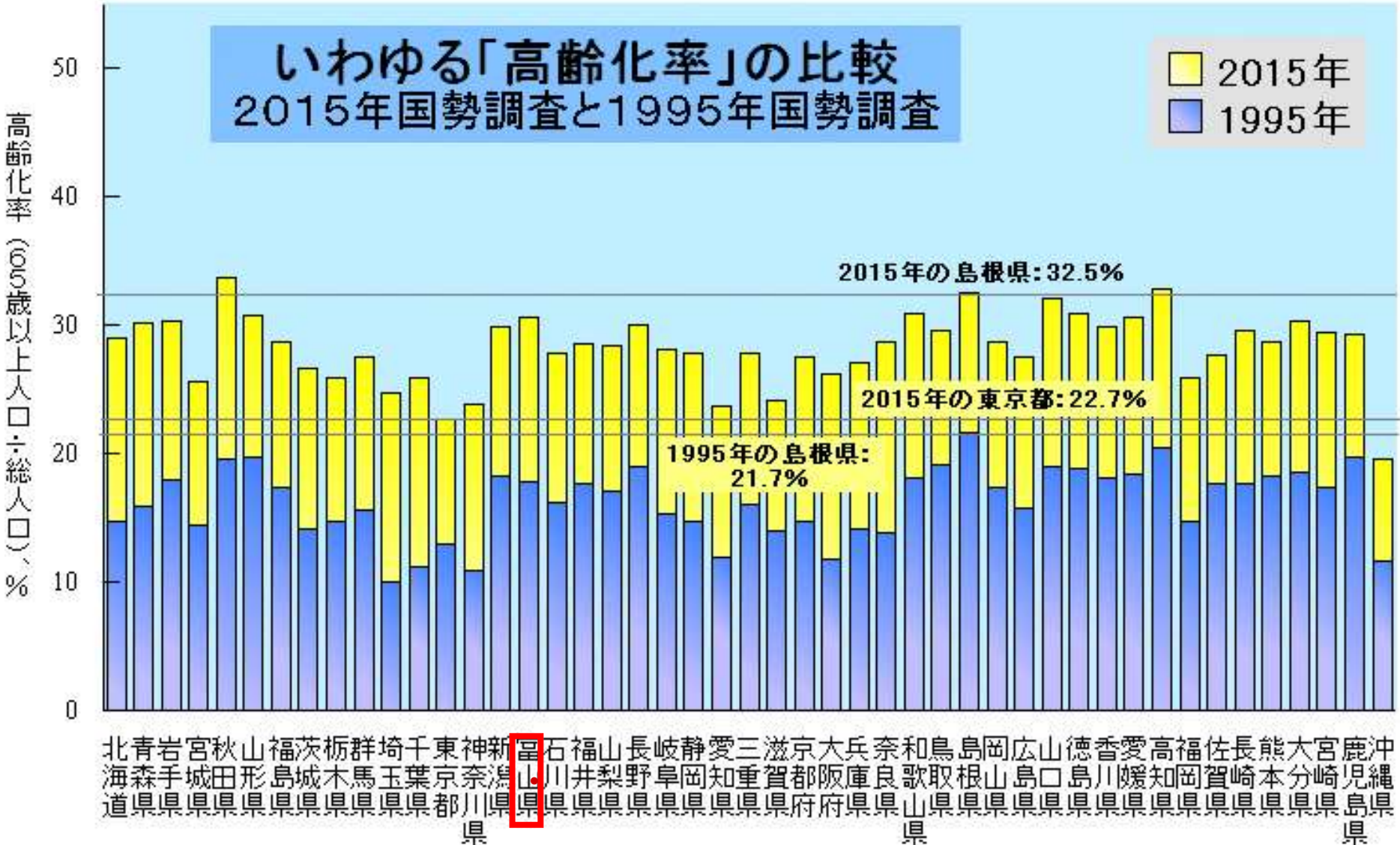
50
40
30
20
10
0

全国平均: 26.6%

東京都: 22.7%

北海道 青森県 岩手県 宮城県 秋田県 山形県 福島県 茨城県 栃木県 群馬県 埼玉県 千葉県 東京都 神奈川県 新潟県 富山県 石川県 福井県 山梨県 長野県 岐阜県 静岡県 愛知県 三重県 滋賀県 京都府 大阪府 兵庫県 奈良県 和歌山県 鳥取県 島根県 岡山県 広島県 山口県 徳島県 香川県 愛媛県 高知県 福岡県 佐賀県 長崎県 熊本県 大分県 宮崎県 鹿児島県 沖縄県

全国で同時に進んできた「高齢化」

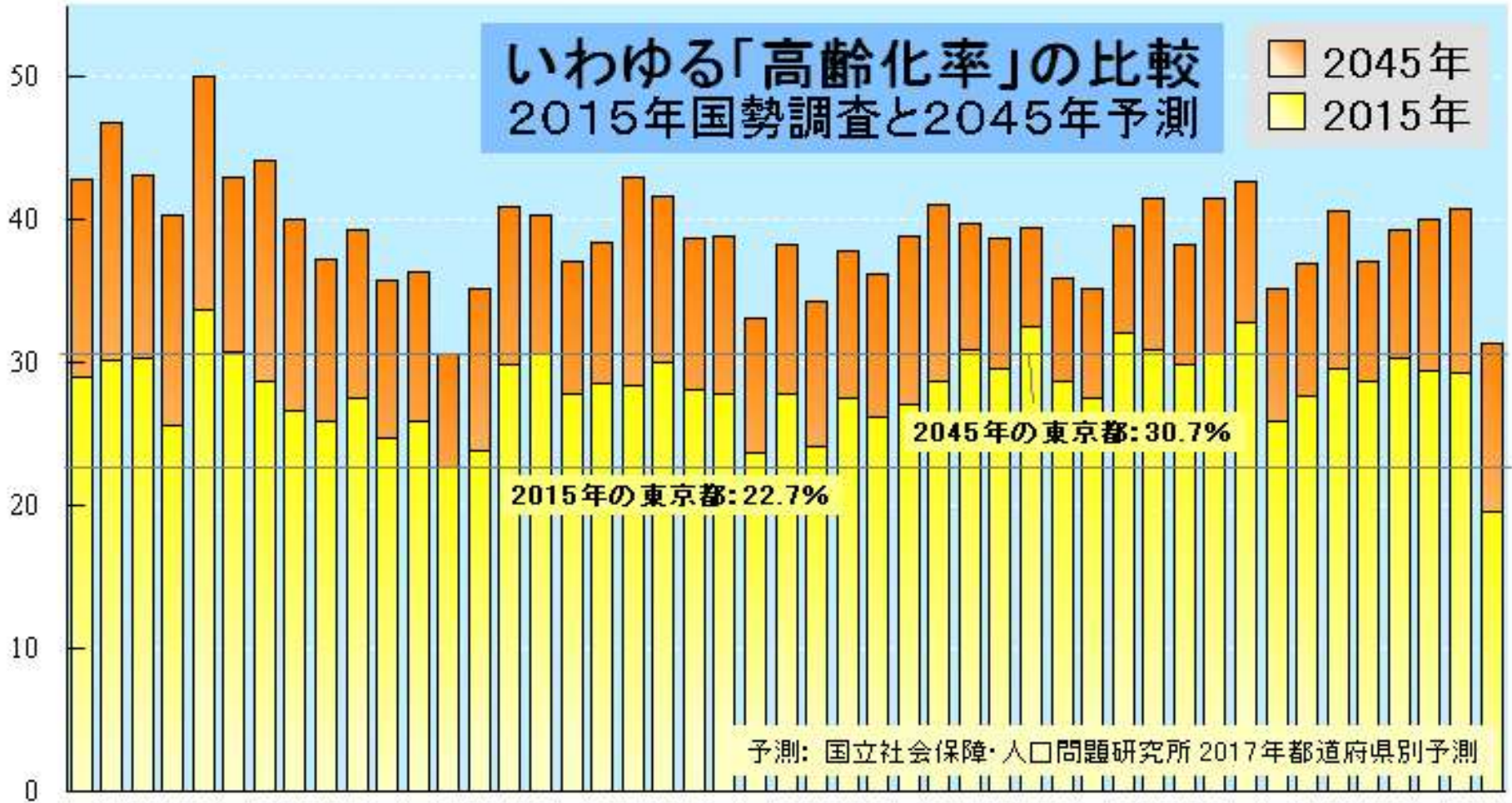


全国で同時に進んでいく「高齢化」

いわゆる「高齢化率」の比較
2015年国勢調査と2045年予測

2045年
2015年

高齢化率(65歳以上人口÷総人口、%)



北青岩宮秋山福茨栃群埼千東神新富石福山長岐静愛三滋京大兵奈和鳥島岡広山徳香愛高福佐長熊大宮鹿沖
 海森手城田形島城木馬玉葉京奈潟山川井梨野阜岡知重賀都阪庫良歌取根山島口島川媛知岡賀崎本分崎児縄
 道県県県県県県県県県県都川県県県県県県県県県府府県県山県県県県県県県県県県県県県県県
 県

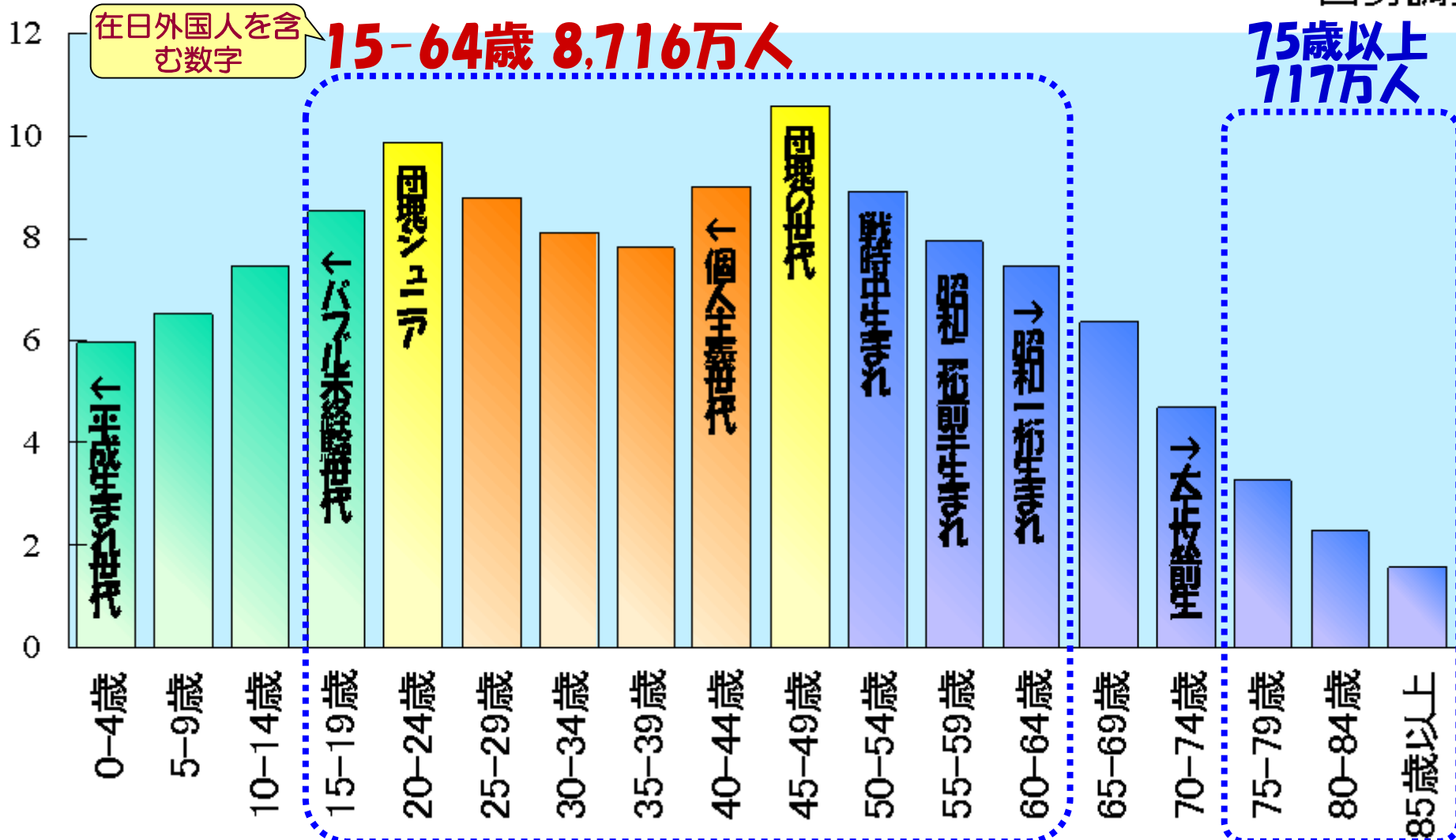
就職氷河期の頃の日本在住者



何歳の人口が多かったのか：1995(H7) = 20年前

百万人

国勢調査



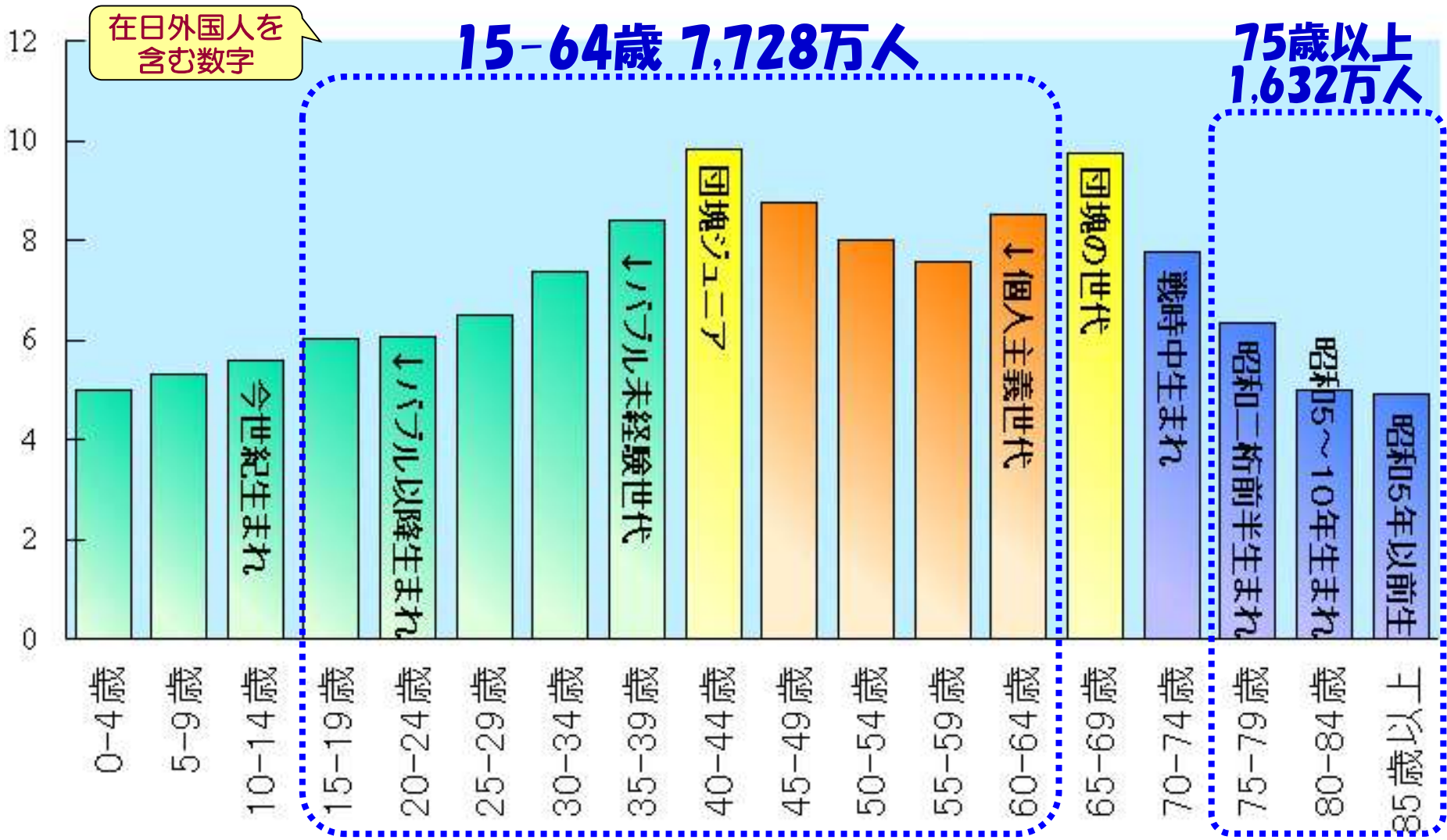
現在の日本在住者



何歳の人口が多いのか：2015＝現在

百万人

国勢調査結果を国立社会保障・人口問題研究所が補正



20年後の日本在住者

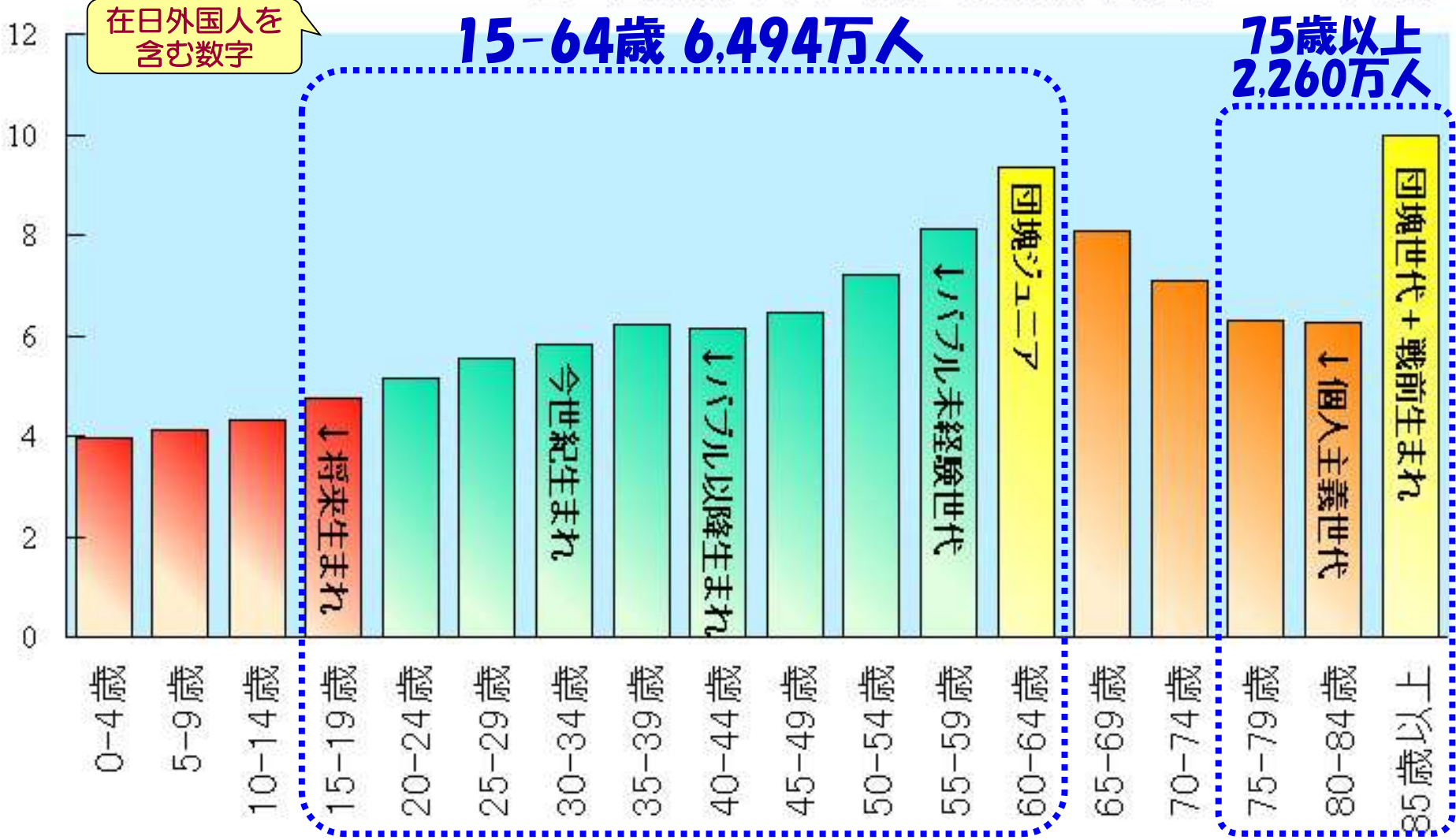


2010-2015年の
トレンドを
伸ばした中位推計

何歳の人口が多くなるのか：2035＝20年後

百万人

国立社会保障・人口問題研究所中位推計（2017年改訂）



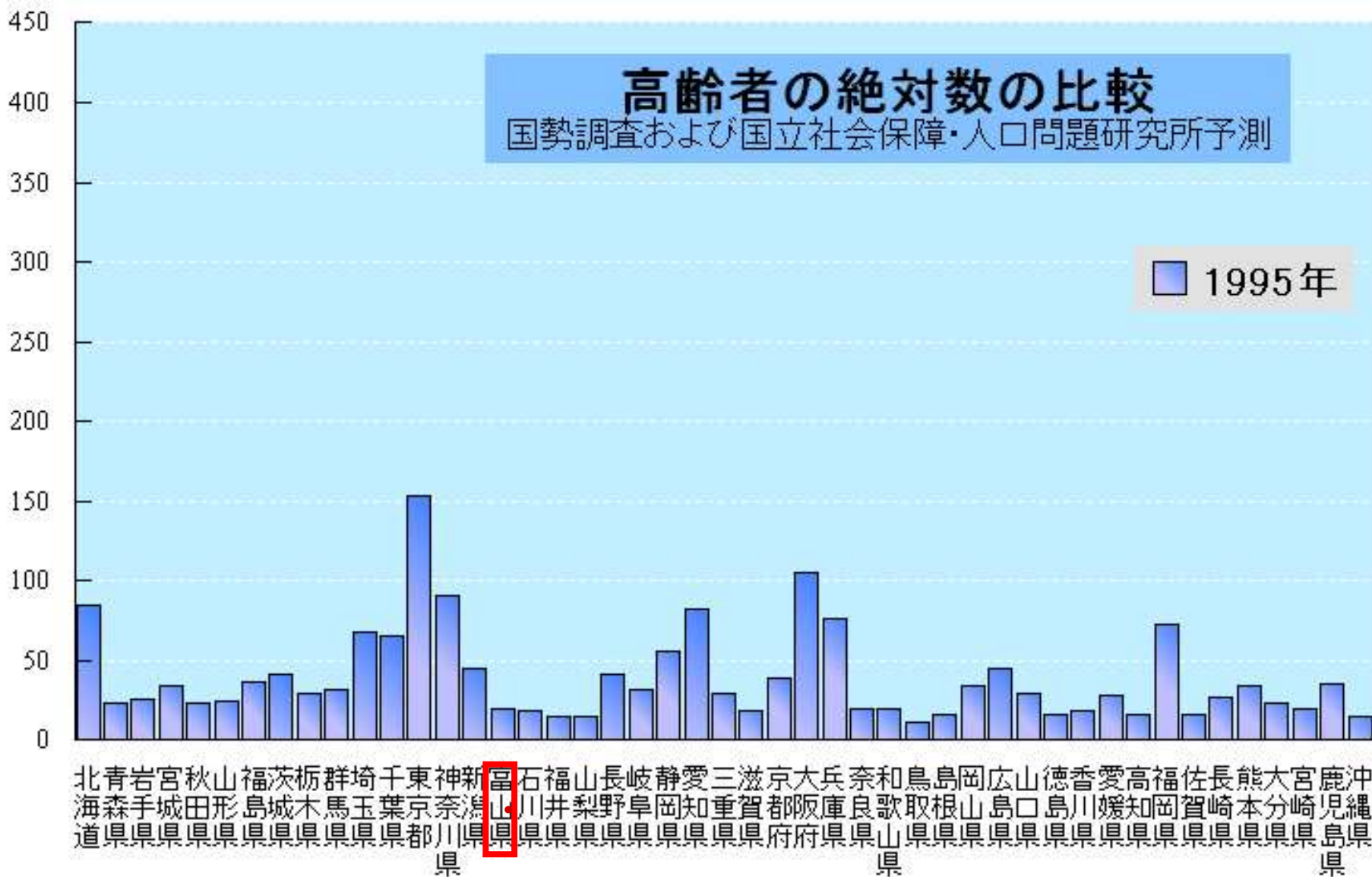
高齢者の絶対数が多いのはどこか

高齢者の絶対数の比較

国勢調査および国立社会保障・人口問題研究所予測

1995年

高齢者の絶対数(65歳以上人口)、万人

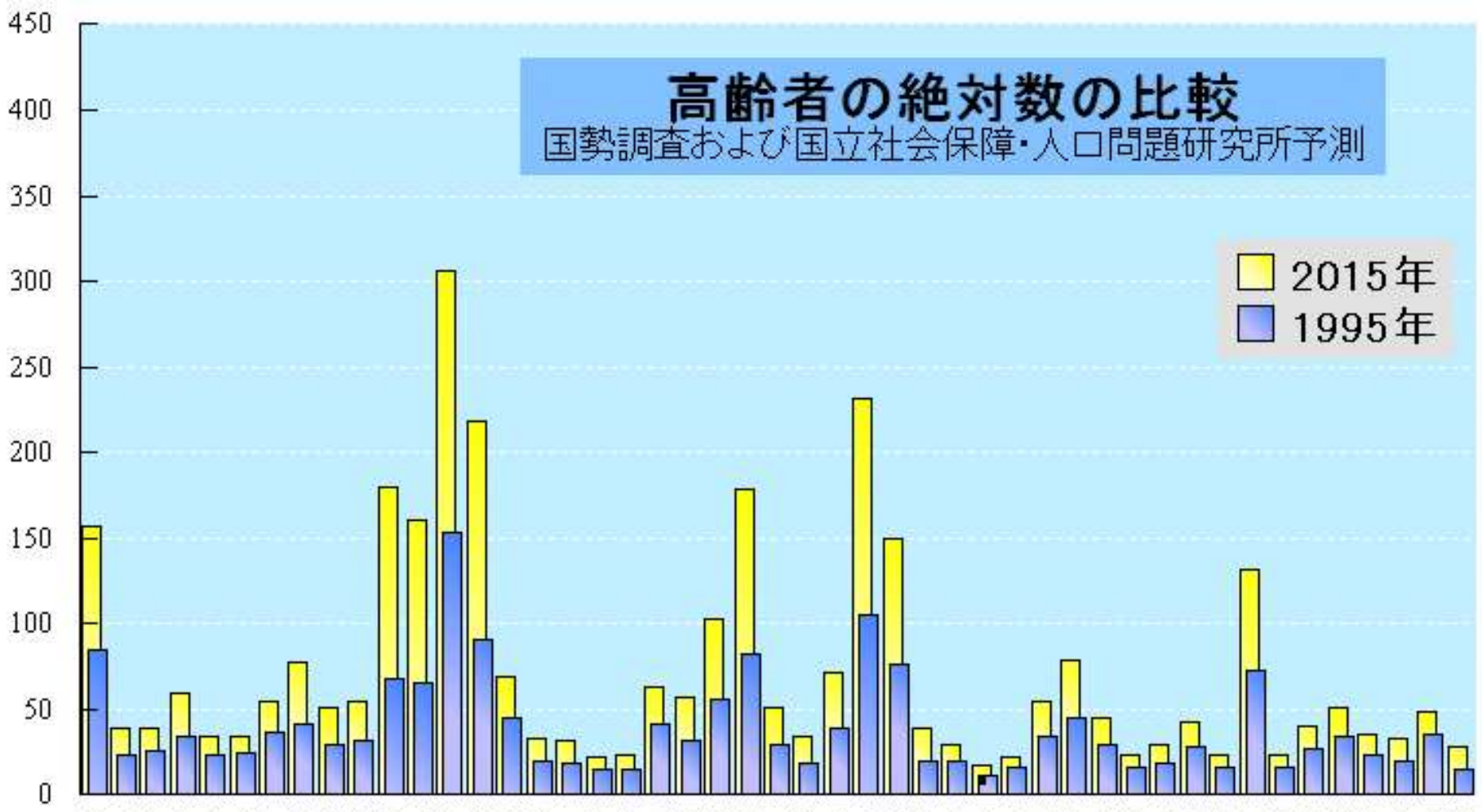


高齢者の絶対数が増えたのはどこか

高齢者の絶対数の比較
 国勢調査および国立社会保障・人口問題研究所予測

高齢者の絶対数(65歳以上人口)、万人

2015年
 1995年



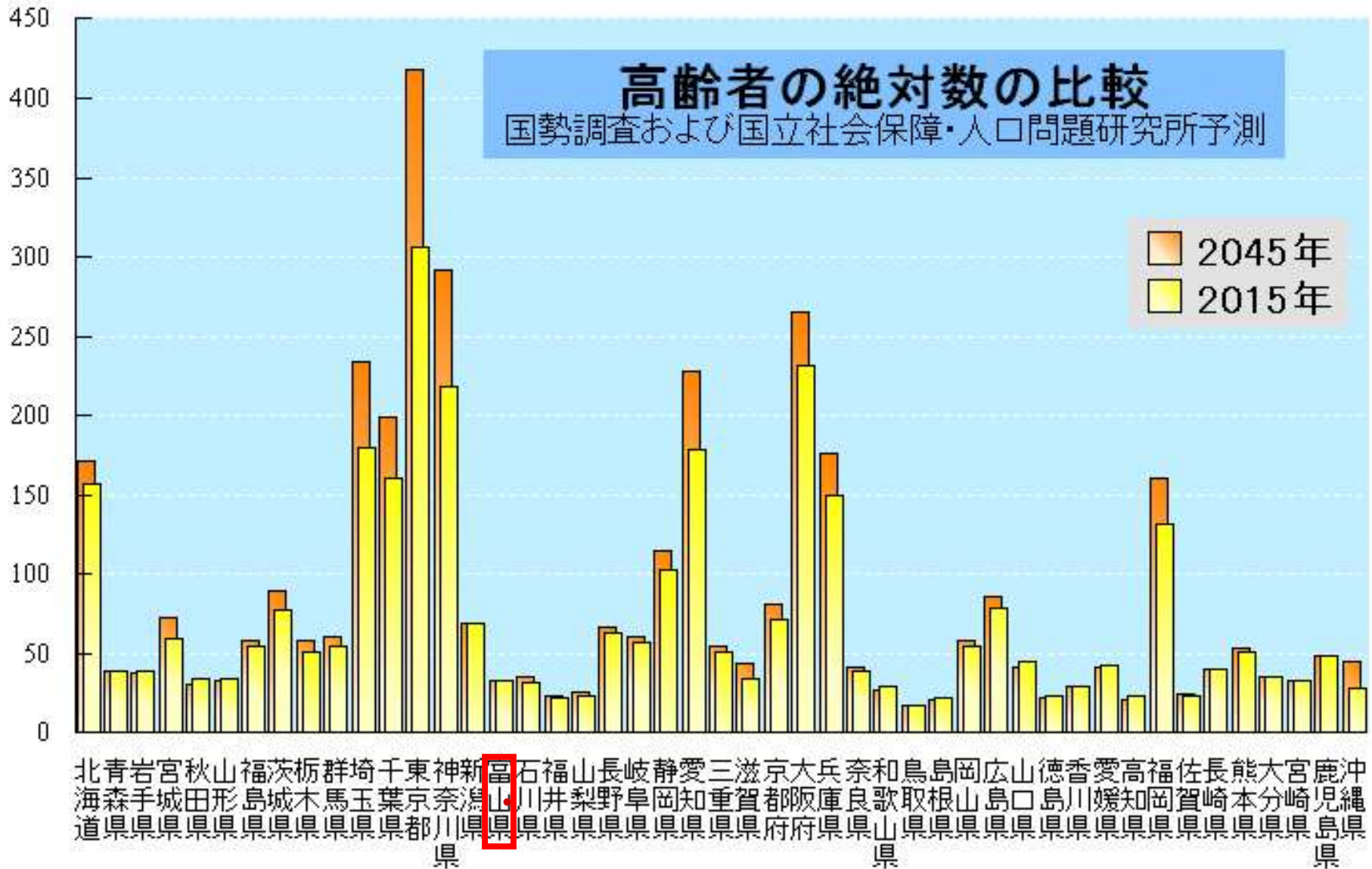
北青岩宮秋山福茨栃群埼千東神新富石福山長岐静愛三滋京大兵奈和鳥島岡広山徳香愛高福佐長熊大宮鹿沖
 海森手城田形島城木馬玉葉京奈濃山川井梨野阜岡知重賀都阪庫良歌取根山島口島川媛知岡賀崎本分崎児縄
 道県県県県県県県県県県県都川県県県県県県県県県県県府府県県県山県県県県県県県県県県県県県県県
 県

高齢者の絶対数が増えるのはどこか

高齢者の絶対数の比較
 国勢調査および国立社会保障・人口問題研究所予測

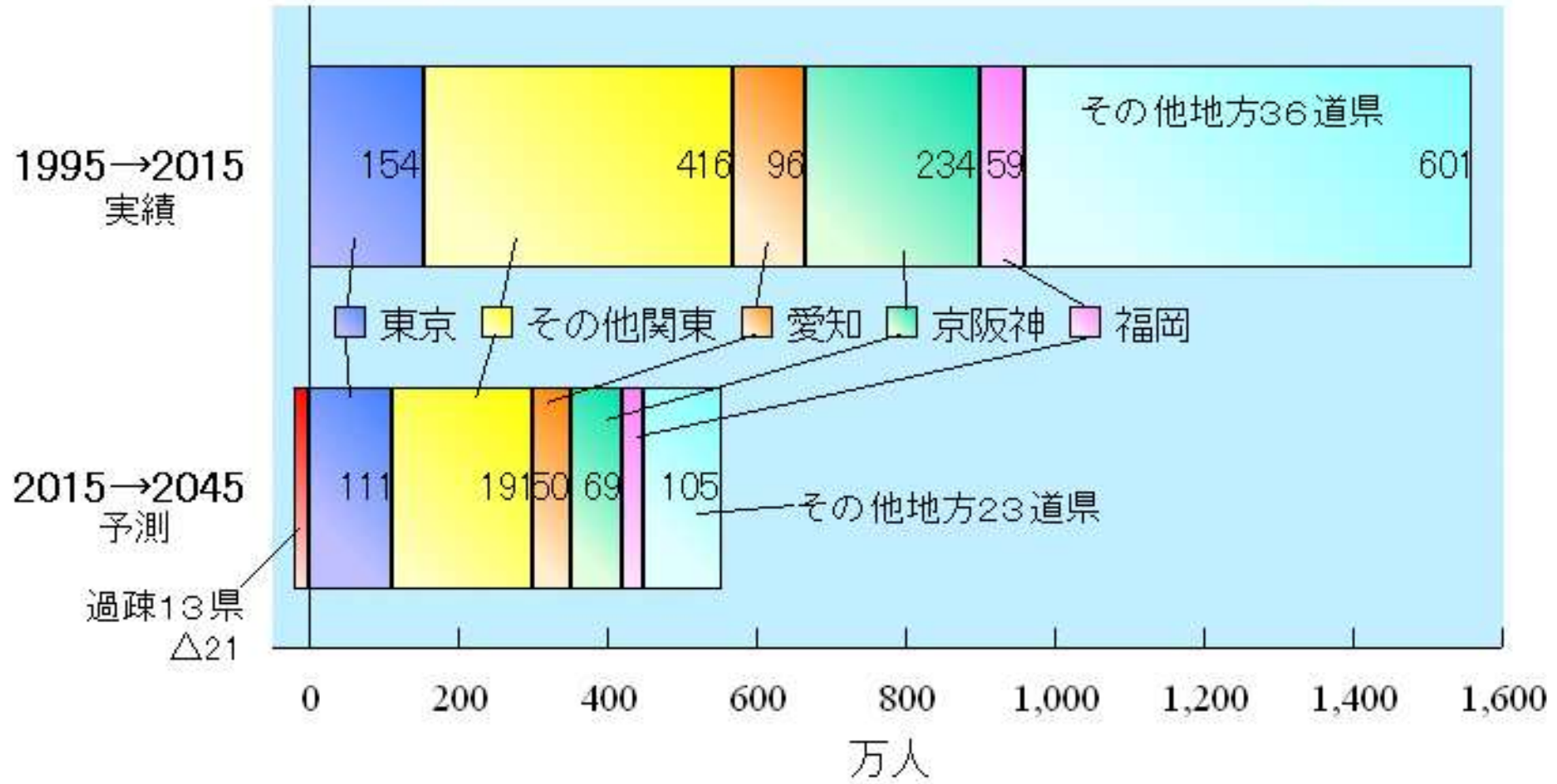
2045年
 2015年

高齢者の絶対数(65歳以上人口)、万人



高齢者の絶対数が増えるのは大都市

高齢者の増加数の比較
国勢調査および国立社会保障・人口問題研究所予測



田舎と大都市・高齢化の大逆転

× **20世紀：高齢化する田舎 / 若々しい大都市**

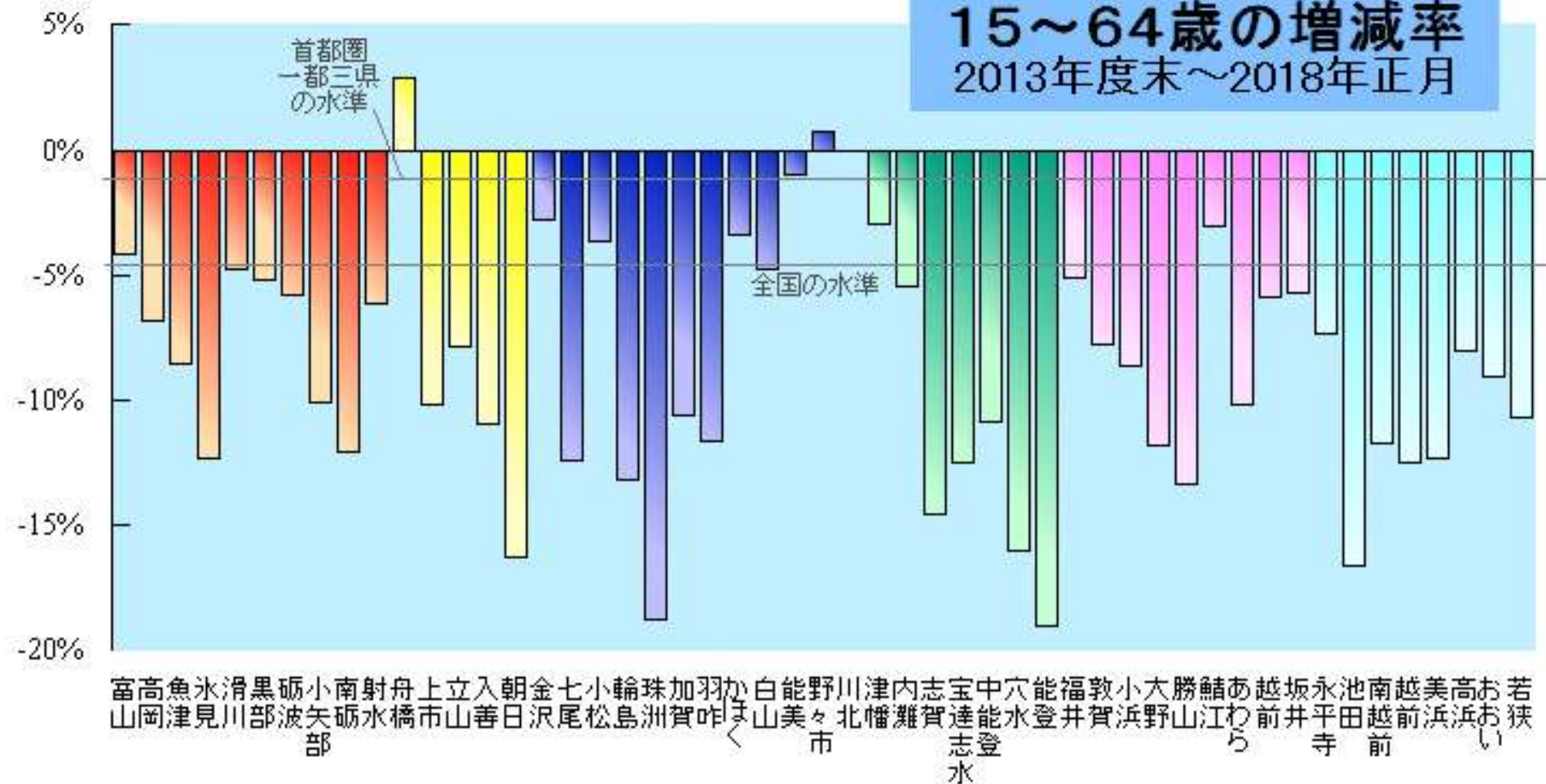
○ **21世紀：高齢者が減る田舎 / 激増する大都市**

- 大都市では今後高齢者が激増 / 田舎ではむしろ減りだす
- 田舎は、今の医療介護体制を維持できれば何とかなるが、大都市ではいつまでも医療介護の体制整備が追いつかない
- 先に高齢化した田舎で成り立つ企業が、全国で生き残る
- 人口が少ない方が食料自給率や自然エネルギー自給率を高く保つことができ、長持ちする社会ができる
- 結局生き残るのは子供が生まれる地域 / 都会の子育てを容易にするより、子育ての容易な田舎に若者を戻す方が早い

ただし問題は、惰性的のように続く若者の流出を止められるか。雇用創出よりも、耕作放棄地と空家の賃貸促進による、若者受け入れがカギ。

北陸の自治体比較：①現役世代の増減

北陸の自治体比較①
15～64歳の増減率
2013年度末～2018年正月

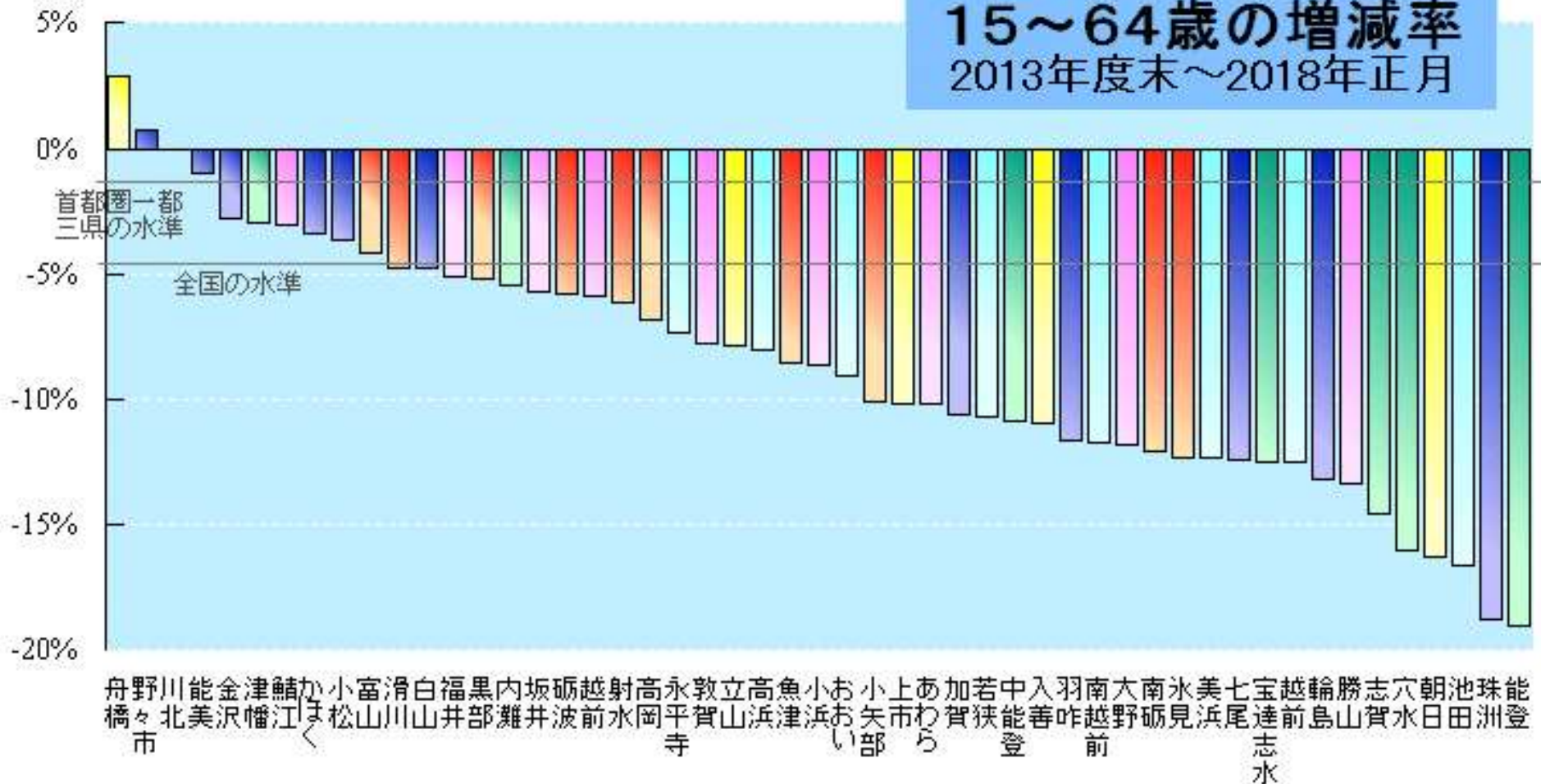


資料：住民票の数字から藻谷が試算

計算式：(2018年の15-64歳人口 - 2013年の15-64歳人口) ÷ 2013年の15-64歳人口

北陸の自治体比較：①現役世代の増減

北陸の自治体比較①
15～64歳の増減率
2013年度末～2018年正月



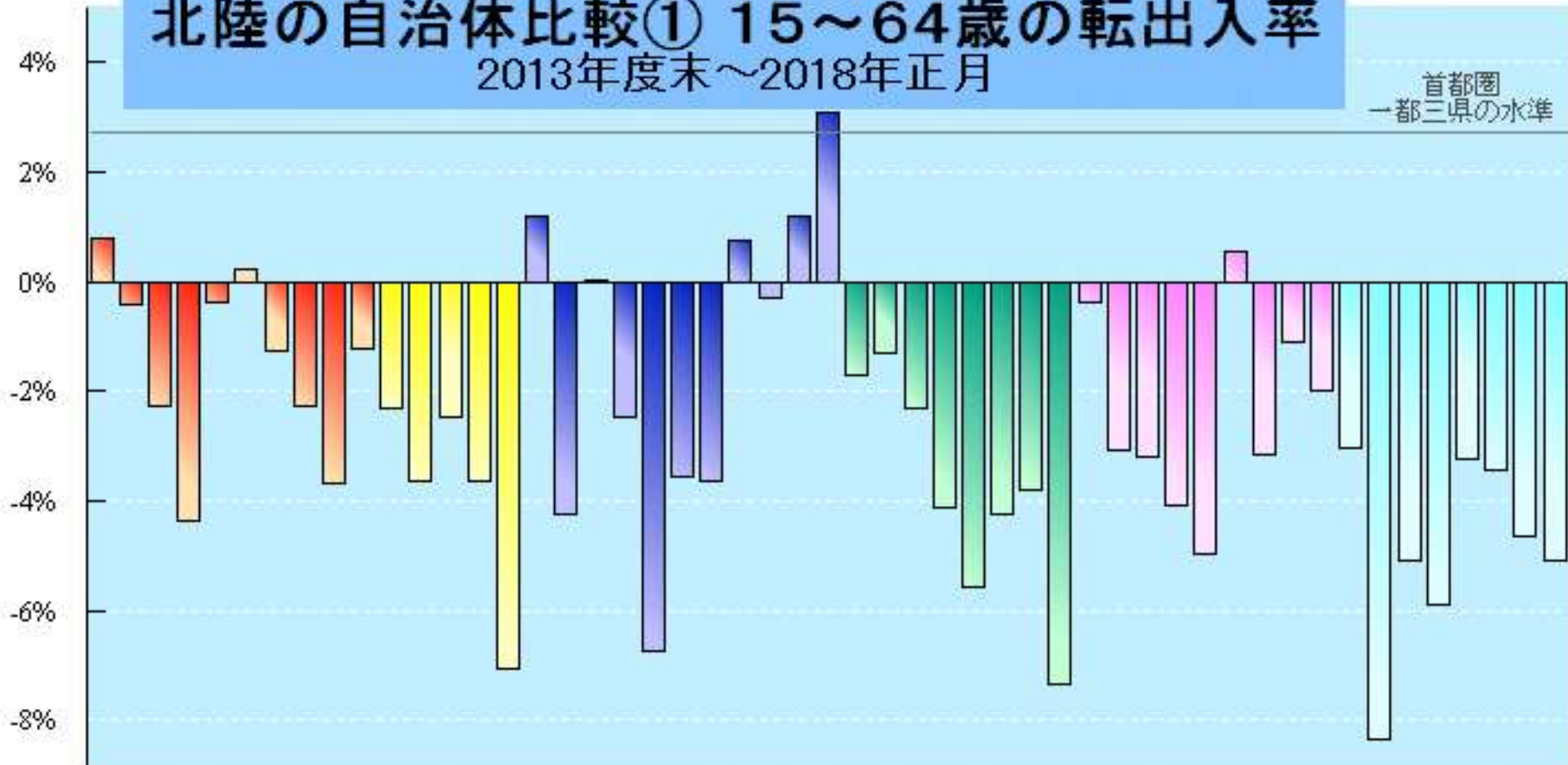
資料：住民票の数字から藻谷が試算

計算式：(2018年の15-64歳人口 - 2013年の15-64歳人口) ÷ 2013年の15-64歳人口

北陸の自治体比較：②現役世代の転出入

北陸の自治体比較① 15～64歳の転出入率
2013年度末～2018年正月

首都圏
一都三県の水準



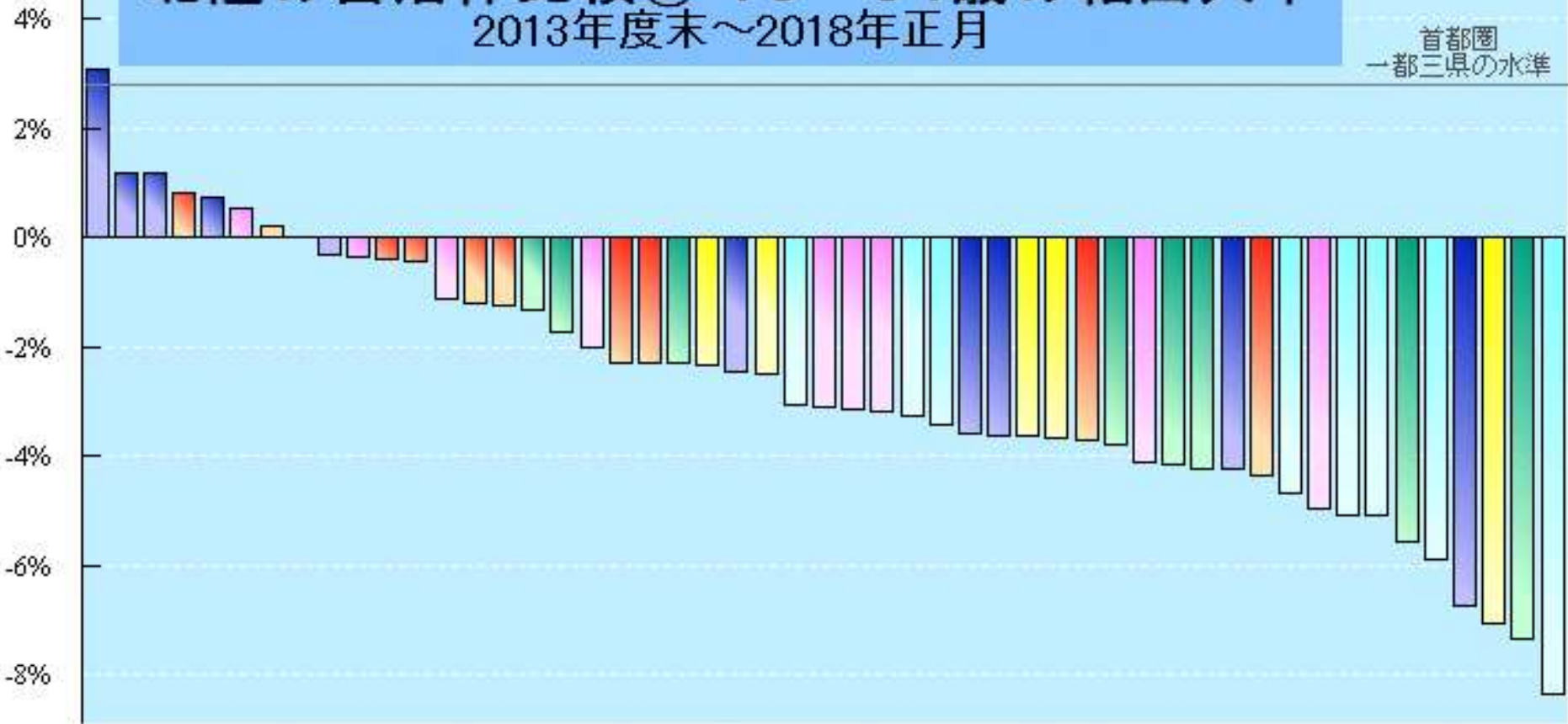
富山 魚津 氷見 滑川 黒部 砺波 小矢部 南砺 射水 舟橋 上野市 立山 入善 朝日 金沢 七尾 小松 輪島 珠洲 加賀 羽咋 かほく 白山市 能美 野々市 川北 津幡 内灘 志賀 宝達 中能登 穴水 能登 福井 敦賀 小浜 大野 勝山 鯖江 あわら 越前 坂井 永平 池田 南越前 越前 美浜 高浜 おおい 若狭

資料：住民票の数字から彦谷が試算
計算式：(2018年の15-64歳人口 - 2013年の10-59歳人口) ÷ 2013年の10-59歳人口

北陸の自治体比較：②現役世代の転出入

北陸の自治体比較② 15～64歳の転出入率
2013年度末～2018年正月

首都圏
一都三県の水準

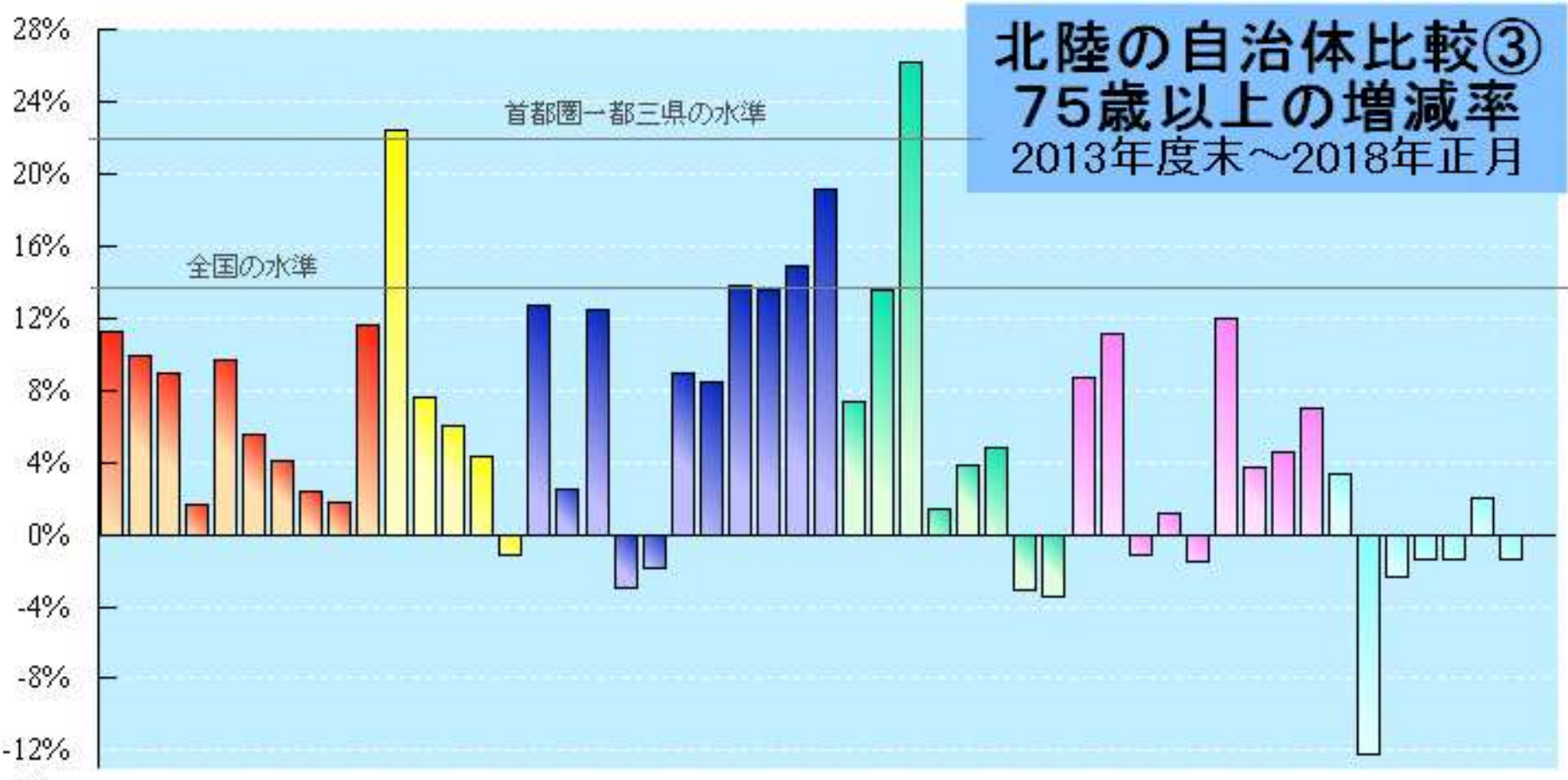


野々市 金沢 能美 富山 かほく 鯖江 黒部 小松 白川 福井 滑川 高岡 越前 射水 砺波 津幡 川北 坂井 魚沼 小浜 内子 舟橋 立川 永平 敦賀 あわら 小浜 美浜 高浜 加賀 羽咋 上野 入善 南砺 穴水 大野 志賀 中野 七尾 氷見 おん 勝山 若狭 宝達 越前 珠洲 朝日 能登 池田 田舎 登田 野田 水谷 志水 前水 洲本 日野

資料：住民票の数字から藻谷が試算

計算式：(2018年の15-64歳人口 - 2013年の10-59歳人口) ÷ 2013年の10-59歳人口

北陸の自治体比較:③後期高齢者の増減



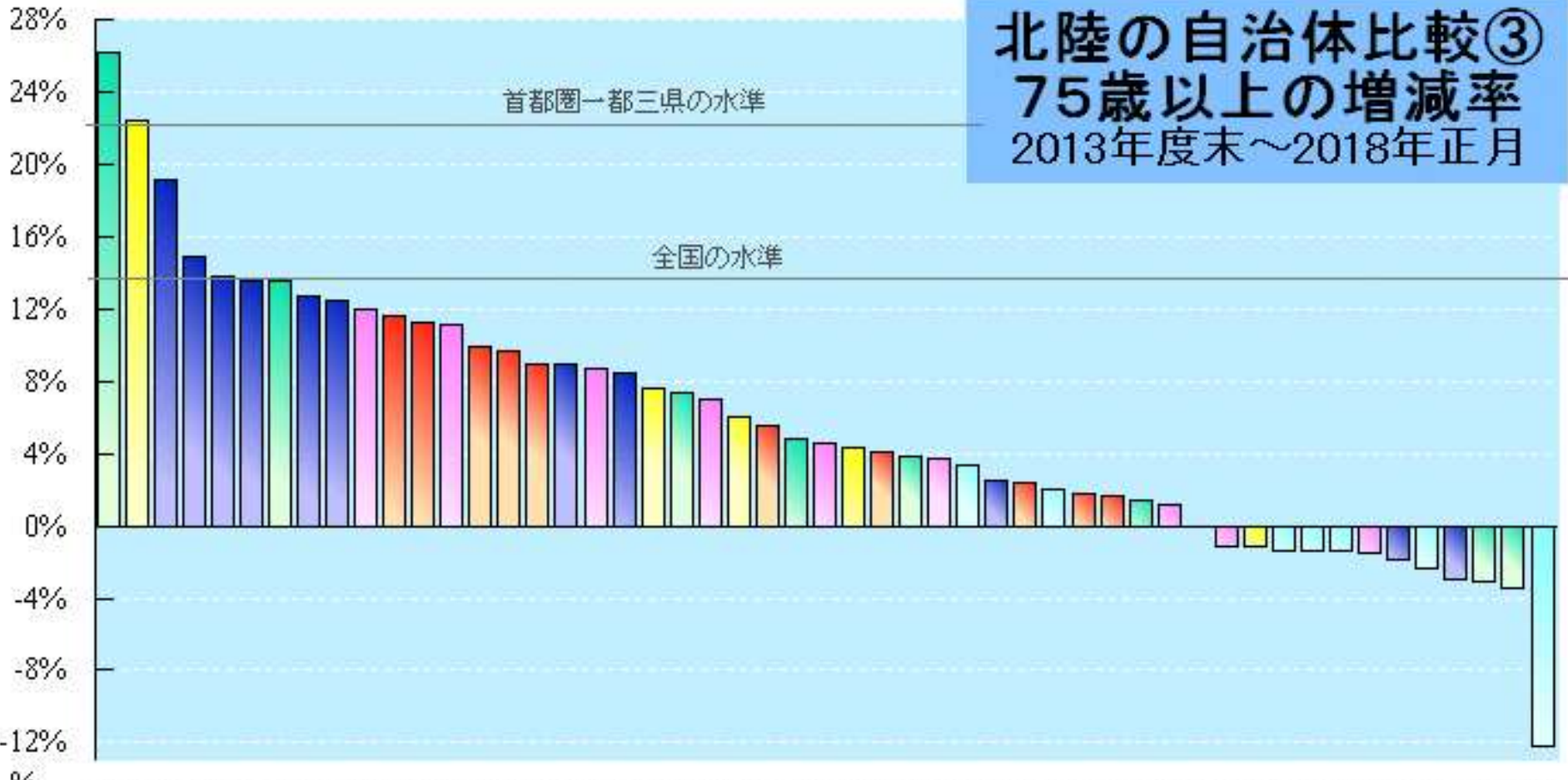
北陸の自治体比較③
75歳以上の増減率
2013年度末～2018年正月

富山 高岡 魚津 氷見 滑川 黒部 砺波 小浜 南砺 射水 舟橋 上市 立山 入善 朝日 金沢 七尾 小松 輪島 珠洲 加賀 羽咋 かほく 白川 能登 野々市 川北 津幡 内灘 志賀 宝達 中能登 穴水 福井 敦賀 小浜 大野 勝山 鯖江 あま 越前 坂井 永平 池田 南越前 越前 美浜 高浜 おおい 狭い

資料: 住民票の数字から藻谷が試算
計算式: (2018年の0-4歳人口 - 2013年の0-4歳人口) ÷ 2013年の0-4歳人口

北陸の自治体比較:③後期高齢者の増減

北陸の自治体比較③
75歳以上の増減率
2013年度末～2018年正月

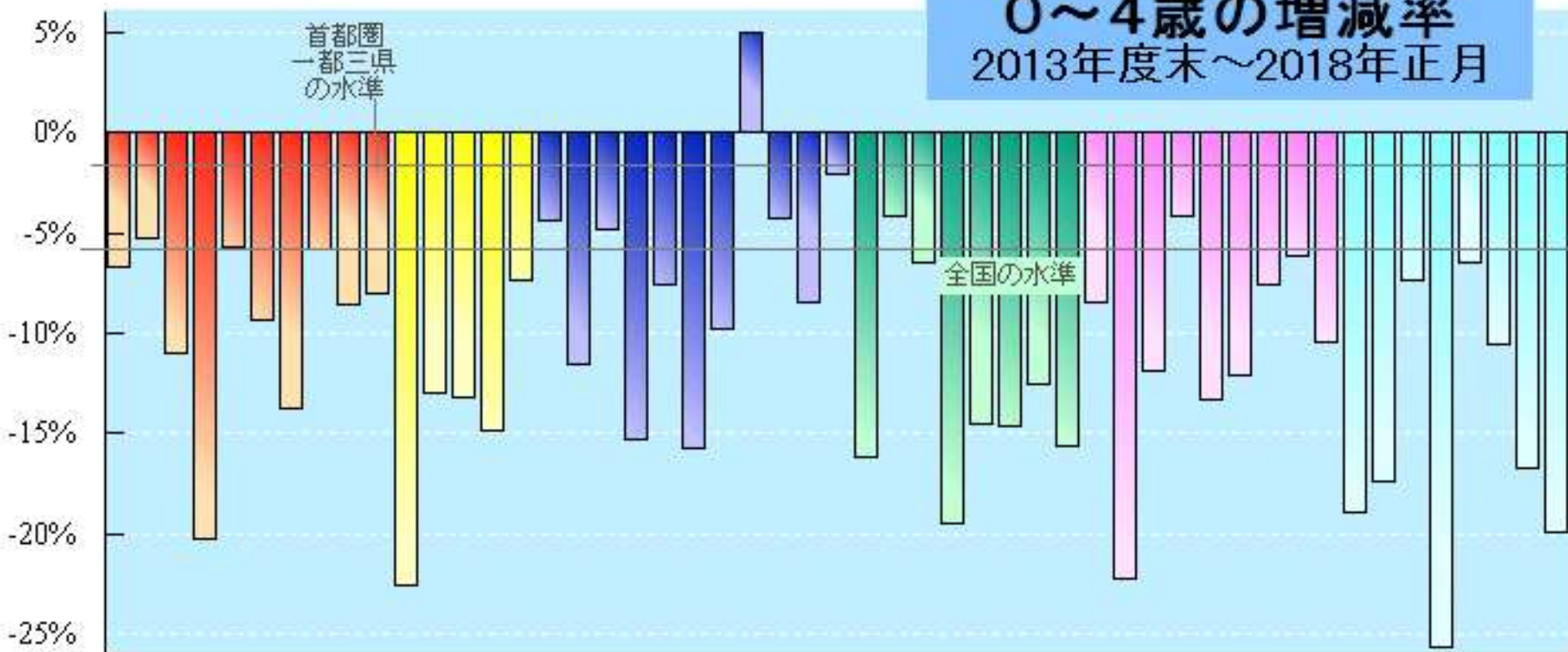


内灘市 舟橋 野々 能美市 かほく 白山市 津幡 金沢市 小松市 射水市 富山県 敦賀市 高岡市 滑川市 魚津市 加賀市 福井県 羽咋市 上川町 坂井市 立山町 黒部市 中能登 越前市 入善町 砺波市 宝達 あわら市 永平町 七尾市 小浜市 高浜町 南砺市 氷見市 志賀町 大野町 若狭町 小浜町 朝日町 越前市 美浜町 おん市 勝山町 珠洲市 南越前 輪島市 穴水町 能登町 池田町

資料: 住民票の数字から藻谷が試算
計算式: (2018年の0-4歳人口 - 2013年の0-4歳人口) ÷ 2013年の0-4歳人口

北陸の自治体比較：④乳幼児の増減

北陸の自治体比較④
0～4歳の増減率
2013年度末～2018年正月



富山 高岡 魚津 氷見 滑川 黒部 砺波 小矢部 南砺 射水 舟橋 上市 立山 入善 朝日 金沢 七尾 小松 輪島 珠洲 加賀 羽咋 かほく 白川 能登 野々市 川北 津幡 内灘 志賀 宝達 中能登 穴水 福井 敦賀 小浜 大野 勝山 鯖江 あわら 越前 坂井 永平 池田 南越前 越前 美浜 高浜 おおい 若狭

資料：住民票の数字から薄谷が試算

計算式：(2018年の0-4歳人口 - 2013年の0-4歳人口) ÷ 2013年の0-4歳人口

北陸の自治体比較：④乳幼児の増減

北陸の自治体比較④
0～4歳の増減率
2013年度末～2018年正月



か野大津白金小高滑小越美内富朝南珠あ射福能南黒羽坂高魚七小鯖穴上立勝砺宝中入輪能加川お池永志若氷敦舟越
ま々野幡山沢松岡川矢前浜灘山日越洲わ水井美砺部咋井浜津尾浜江水市山山波達能善島登賀北お田平賀狭見賀橋前
く市 部 前 ら 志登 寺

資料：住民票の数字から薄谷が試算

計算式：(2018年の0-4歳人口-2013年の0-4歳人口)÷2013年の0-4歳人口

止められないこと・できること

× 止められないこと

- 今の住民が毎年1歳ずつ歳を取っていくこと
- (多くの)若者が地域外に就職して出て行くこと

△ 変えられること

- これまでには一度出て行ったきり帰ってこなかった若者たちを、今後は工夫次第で呼び戻せる
- 子育て世代の支援で、出生率を高くできる

○ おそらく前向きにできること

- 子育てしながら働く若い世代を呼び込める
- 無病息災で天寿を全うする高齢者を増やせる
- 来訪・滞在・短期定住する外来者を増やせる

島根県隠岐

2013年

おき

あま

していること

含む

なぜ海士町の15～64歳は余り減らなかったのか？

最近5年間に

**80人が15歳を超え、
15～64歳が差し引き100人転入し、
210人が65歳を超えた。**

**新入生80人 + 転校生100人
- 卒業生210人で
30人の微減。**

2013年

↑その中の1

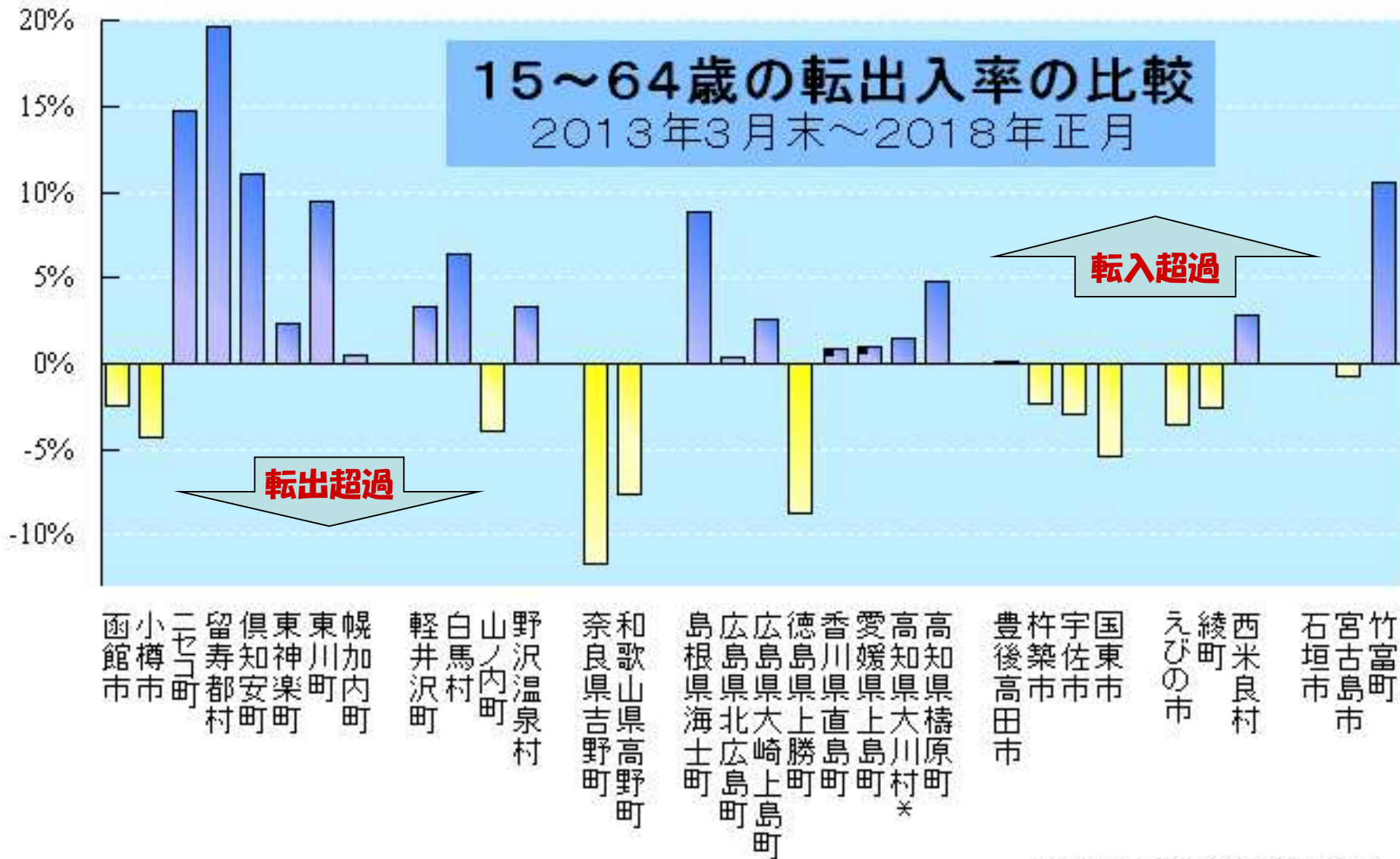
2013年

550人

増減

人

15～64歳の転入する過疎地とは？



資料：住民票より藤谷が作成
転出入率：2018年の15-64歳人口÷2013年の10-59歳人口-1

地域活性化の5段階

ここまで来ないと意味がない!

地域内経済
循環拡大

- ① 所得が地域内で使われて隅々にまで回る
- ② 地域企業が栄え地域内の決裁権限が増える

所得増加

売上が原材料費や人件費に回ることによって地域内に落ち、住民が儲かる

売上増加

滞在時間が増え、宿泊者が増えて、客単価が上がり、地元業者が儲かる

客数増加

いわゆる「入込客数」が増え、イベント屋やコンビニ、輸送機関が儲かる

知名度UP
話題性UP

マスコミで紹介され、イメージが良くなり、政治家や有力者が喜ぶ

SCに喩えると

これ即ち**“目標”**

これは**“戦略”**

一つの**“戦術”**

単なる**“一手段”**

結果に無関係な
自己満足

観光地の例

北海道二セコ町
沖縄県内各地

北海道猿払村
徳島県上勝町

小樽市・高野山
熱海市・箱根町

B級グルメの
“成功例”

津軽海峡冬景色
関が原古戦場

地域外

ばらそう

地域と地域企業が
今後とも続いていくための道

それは「地消地産」

= 地元で消費するものは極力地元産に



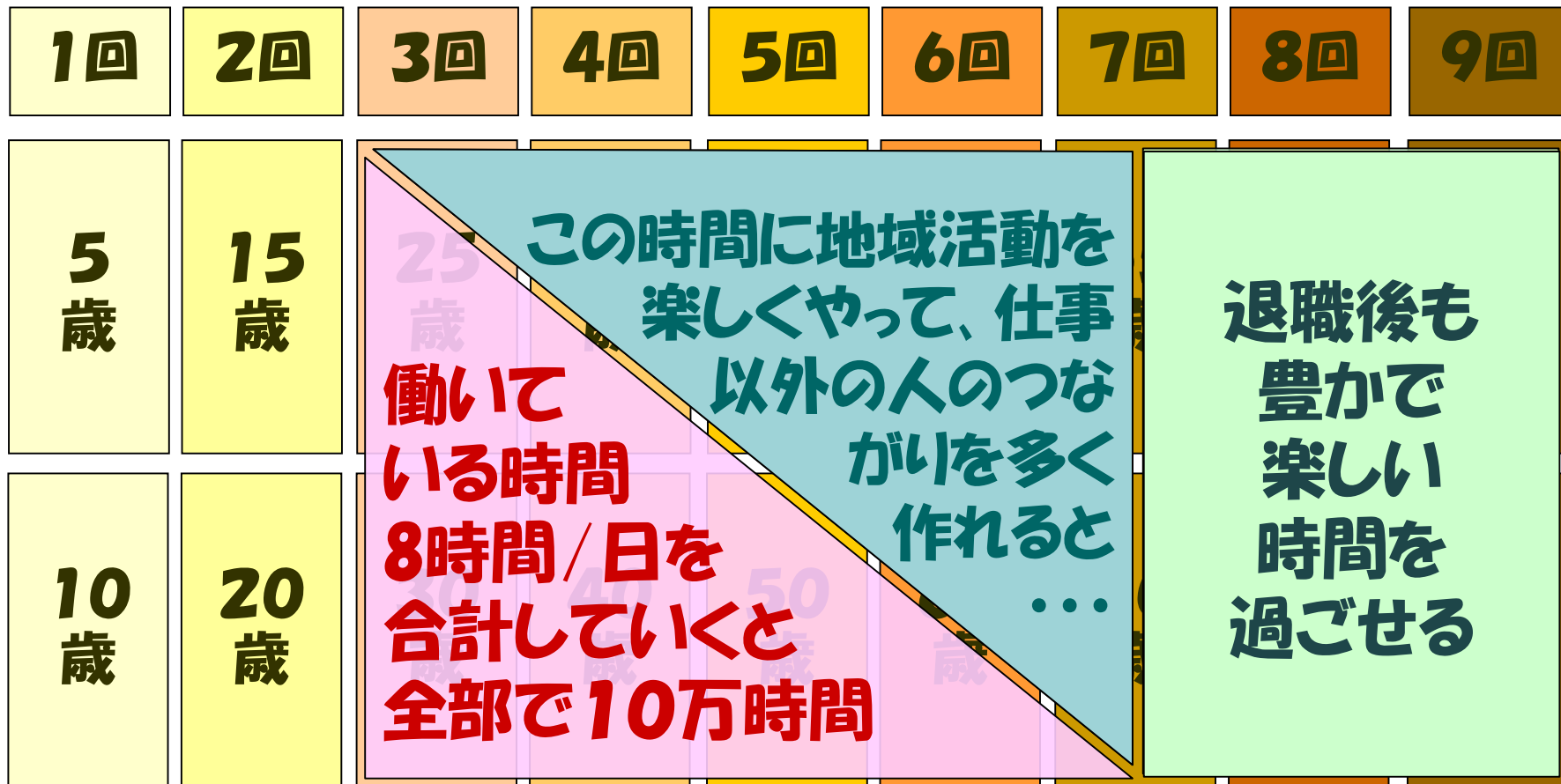
売上の中で地元に残って回る
部分を1%でも増やす

地域内経済循環を拡大し
決裁権限を取り戻そう

多くは結局
では使われない

し、雇用
人口を増やす!

人生は9回裏までである！



学校教育の関係者はここまでしか考えていない

都会で働く人はここまでしか考えていない

農山漁村では、こちらあたりが人生本番

ヘタしたら延長戦もあいうる